

令和6年度 ともに未来を創る「くるめっ子」を育成する 青峰小学校プラン

《学校の教育目標》 自ら学び 心豊かに たくましく生きぬく青峰っ子の育成「つくる子・つなぐ子・つらぬく子」

《本年度の重点目標》 統合に向けて、活気あふれる子どもの育成 「あいさつ・せいそう・かんけいづけて・きあい・きもち(心)をこめて」

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、次の学習や他の学習、生活の場面で活用できる。

【つくる力】

根拠をもって判断し、対象や思考を広げたり深めたりして言葉や文等に示して伝えながら問題を解決することができる。

【つなぐ力】

自らの課題解決に向け、最後まであきらめずに取り組み自分の生活(生き方)に役立てようとする事ができる。

【つらぬく力】

学びをつなぐ授業

- ① 学力向上プラン「視点2」に記載
- ② ねらいや活動をしぼり、教材や情報の提示について、絵・図・写真・具体的な動作等、視覚的に示す支援の工夫を行う。(国語・算数・生活・理科・社会等において、毎日1回以上)
- ③ 「くるめ授業スタンダード」にICT活用を位置づけた授業を実施する。(1日3回程度)
【成果指標】「授業でコンピュータなどのICTをほぼ毎日使用している」と答える児童が80%以上
- ④ 全員が話したり読んだり書いたりすることができるような提示の仕方や活動内容を工夫する。(外国語の毎時間)

笑顔の先生

- ① 学力向上プラン「視点4」に記載
- ② 各会議の目的と人数・時間設定が適切かを見直す(学期1回)。また、職員会議提案資料をA4一枚程度に減らし、職員会議の時間配分等を示した要項と合わせて事前配布・閲覧できるようにする。【成果指標】60分以内に終了した定例会の割合が80%以上

協働する学校・家庭・地域

- ① 地域学校協議会プラン「提言①」参照
- ② 地域学校協議会プラン「提言②」参照
- ③ 学力向上プラン「視点4」に記載

楽しい学校

- ① 担任・担外・児童支援サポーターとの連携強化による「くるめアクションプラン」の初期対応を徹底(毎日)。いじめ・不登校対策委員会(月1回)で、状況把握とケースに応じた対応策を検討、全職員で共有する場の設定。SC・SSW・家庭子ども相談課等外部機関との連携強化(月1回ケース会議)。【成果指標】いじめ認知件数の増・不登校児童数の減。
- ② 学級活動や代表委員会における「雨の日の過ごし方」「安全な遊び方」「廊下・階段の安全な通り方」についての話し合いをもとに、児童が主体的に考えて行動し続けることができるように、日常の指導・支援を行う。(学校安全に関するいずれかの項目について、日常・特活の指導や朝や帰りの会で週に一回以上の振り返りの機会を位置づけや掲示物設置を行う。)
- ③ 学級活動や朝の活動(スキルタイム)において、SSTを計画的・継続的に位置づけ(年間7時間分)、人間関係調整力やコミュニケーション能力を高められるようにする。

【体力向上】

- ① 走力・持久力を高めるため、期間を決めて時間走を位置づける。
- ② 縦割班対抗「縄跳チャレンジ」(「1校1取組」運動)
・体力アップシート利用率:目標96%
・スポコン広場登録学級数:目標1学級以上

【あいさつ・そうじ・自学自習】

- ① 「元気におはよう」を合言葉に、児童会主導で、だれにでも挨拶するような取組を行う。(各学期の重点期間)
- ② 日常的な校内・校外の美化に努め、特に「クリーンタイム期間(年間2回)」等を通して、成果を実感できる機会を大切にする。
- ③ 中学校区3校で連携した「家庭学習定着週間」の設定(年間4回)により、特に自主学習の推進を図り、保護者や児童自身による評価を行う。

基盤として大切にすること(本年度の重点)

- 【人権・同和教育】 あらゆる人権課題の現実に深く学び、子ども達に確かな学力を保障するとともに、自尊感情の育成や互いに支え合う仲間づくりを推進する。[要綱 P103 ~参照]
- 【特別支援教育】 通常の学級在籍の子どもを含む特別な教育的支援が必要な児童について、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成・活用した指導を行う。[要綱 P115 ~参照]
- 【キャリア教育】 キャリアパスポートを活用しながら、自他の伸びを認め合う。[要綱 P140 ~参照]